

史跡広島城跡発掘調査出土遺物の整理状況について（中間報告）

1 対象遺物について

整理対象の瓦片は、昨年度、天守台基礎部の状況の把握及び本丸下段堆積層に関する所見の取得を目的として本丸下段で実施した発掘調査に係る出土遺物である。

調査は3か所で行い、いずれでも戦後の火災整理層と考えられる多量の瓦片を含む層を確認したため、これらの瓦片について全量の取り上げを行った。

2 整理の目的

今後の発掘調査等において出土が見込まれる火災整理層中の瓦片について、その内容を確認し今後の整理方針を定めるための基礎データを得ることを目的とする。

3 整理作業の内容及び進捗状況（3ページ「参考資料」参照）

作業の進め方は以下のとおりとし、本年6月から整理・計測作業を実施している。

項 目	内 容	進捗状況
(1) 洗浄	瓦片に付着している泥・土砂について、洗浄を行う。	完了
(2) 乾燥	洗浄済みの瓦片について、天日等での乾燥を行う。	完了
(3) 分類	乾燥済みの瓦片について、「1 整理過程模式図」のとおり選別・分類を行う。	作業中
(4) 計測等	分類済みの瓦片について、計測及び重量の計量を行い特徴的な資料の写真撮影及び瓦当部の拓本を行う。	作業中
(5) 注記	計測済みの瓦片について、注記※を行う。 ※ 注記内容…遺跡名・地点・層序・出土年月日	作業中

作業(4)について、瓦片のうち、推定や復元による計測が可能な資料や文様等の特徴を持つ資料は、1点ずつ計測及び重量の計量を行っている。計測が困難なその他小瓦片は、全点を分類し、コンテナごとに点数を把握した上で重量の計量を行っている。

4 各地点の掘削土量に対する整理対象瓦片の出土重量

地点	掘削土量	出土瓦片重量	土量 1 m ³ 当たりの 出土瓦片重量
T 1	10.0 m ² ×深さ 0.5m : 5.00 m ³	510 kg	102.0 kg/m ³
T 2－1	10.5 m ² ×深さ 0.5m : 5.25 m ³	1,670 kg	318.1 kg/m ³
T 2－2	5.0 m ² ×深さ 0.45m : 2.25 m ³	280 kg	124.4 kg/m ³
全体	12.50 m ³	2,460 kg	196.8 kg/m ³

5 整理済みの瓦片に係る所見

本報告は現時点の整理状況に基づく中間的なものであり、整理作業の進捗に応じて内容は更新されるものである。

(1) 瓦片全体について

- ・ 全瓦片のうち平瓦類が7割強程度を占めており、丸瓦類は3割弱程度である。鬼瓦などその他の種別の瓦は僅少である。
- ・ 小瓦片が多く、原形をとどめている資料は僅少である。
- ・ 大型の瓦の瓦片と考えられる厚さ3 cmを越える資料が一部に含まれる。
- ・ 著しく摩滅した瓦片が一部に含まれる。
- ・ 小瓦片の一部に「小天」の刻印のある資料が含まれる（15例程度）。

(2) 軒丸瓦・丸瓦について

- ・ 現時点までで確認されている軒丸瓦の瓦当文様は三巴文と考えられる。
- ・ 大部分の資料が、丸瓦の凹面に残る粘土塊からの粘土板の切り離し痕跡について鉄線で行ったもの（コビキB：新相）であり、糸切りで行ったもの（コビキA：古相）の事例は僅少である。

※ 地域差はあるものの、全国的にみて16世紀末頃にコビキAからコビキBに変化したと言われている。

(3) 軒平瓦・平瓦について

- ・ いずれの資料も破片化しており、瓦当文様の全体像を把握できる資料は僅少である。
- ・ 残存する部分から判断できる瓦当文様は概ね唐草文が多く、一部に子葉文を含む。中央飾りは半菊文、三葉文、花卉文などであり、一例のみ「小天」の中央飾りを持つものがある。

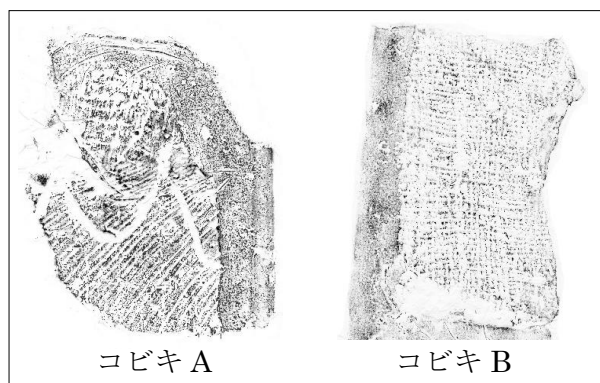
(4) その他

- ・ 瓦片には近世のものに加え、近代以降のものが混在している。戦後の整地層に含まれるものであるため、原位置性は低く、現時点では構造物との関連は明確ではない。

<参考>



洗浄済みの瓦片



丸瓦のコビキ A（古相）・B（新相）の例